



武蔵丘

12月号

烏山学舎世田谷区立武蔵丘小学校 校長 今宮 直樹
世田谷区北烏山 1-47-11 TEL 03-3308-6722
URL <http://school.setagaya.ed.jp/muka/>



ことばとしぐさで育つ子どもたち

副校長 平 裕子

12月に入り、校内にも冬の気配が深まり、子どもたちの元気な声が白い息となって弾む季節となりました。4月の新学期からここまでの日々をふり返えると、一人ひとりが生活や学習で積み上げてきた小さな努力が、確実に成長につながっていることを実感します。

その中でも特に感じているのが、「職員室に入るとき姿勢やマナー」です。本校では、2年前から職員室に入るときには「ノックをする」「扉の前で立ち止まり『〇年〇組 〇〇です』と名乗る」という基本的な動作を大切に指導しています。はじめは、すぐそこにいる担任の先生を呼ぶのにいちいち名乗らせられることに対する抵抗感がありました。しかし、社会に出たときに気持ちよく名乗れる人になってもらいたいと思い、地道に声をかけていました。近年までは、これをきちんとできる子が本当に増えてきました。特に低学年の子どもたちは素直に吸収し、すぐに行動へ移す力があり、日々の声かけが確実に身につけていることに頼もしさを感じています。

こうした礼儀や所作は、ただ形として覚えるだけではなく、相手への思いやりを形にする大切な文化でもあります。「相手がいる場所に入るときは、自分が誰なのかを伝えてから入る」というごく基本的な動作の中にも、相手を尊重する気持ちが表れています。小さい頃から身につけるからこそ、大人になっても自然とできる“生きる力”になっていきます。

先日、3年生が社会科見学で訪れた次太夫堀公園民家園では、江戸時代後期から昭和初期までの民家を見学してきました。そこでの注意事項の一つが「敷居は踏まない」ということでした。日本の家屋では、敷居は家の内と外や、部屋を仕切るための大切な部分とされ、そこを踏むことは無作法とされていました。子どもたちはただ「踏んではいけない」と覚えるのではなく、「なぜそうするのか」という背景にある文化や思いやりに触れることができたようです。

まもなく冬休みに入ります。子どもたちにとっては一年を締めくくる大切な時期であり、家族の時間が増える季節でもあります。お正月を迎えるにあたり、お年玉の使い方を家族で話し合ってみることや、新年に向けて家の仕事を手伝ってみることも、成長につながる貴重な経験になります。規則正しい生活を大切にしながら、健康に気をつけ、どうぞ充実した冬休みをお過ごしください。

今年も本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。